

# 「やむを得ない」の60年 過去の歴史を振り返る

（関連特集 一面から続き）開校して60年を迎えたのは、昨年二〇二〇年だ。しかし昨年度はコロナ元年となり、休校・行事の中止・縮小を余儀なくされた。60周年記念行事も延期となった。本年度12月3日に近江八幡市文化会館で予定されていた60周年記念行事も、再度実施を見合わせる決定が9月下旬にされた。黙食で弁当を食べ、ソーシャルディスタンスで過ごす令和の八工生活。昭和・平成の八工生活はどんなものだったのか。



## 八工走 7km週2回の時代も

昭和50年代の集団走の様子

### 集団走として始まり八工走へ

八工に入学者は必ず経験する「八工走」。現役八工生は「八工走」についてどう思っているだろうか。暑くて大変だから嫌いといっ

た否定的な意見もあれば、体力がつくからあってもいいという肯定的な意見もあるだろう。賛否両論ある「八工走」は、61年前の開校当時から行われて

### グラウンド開拓は生徒の手で

遡ること61年、開校当時の八工には今のような鉄筋コンクリートの校舎や広大なグラウンドはなかった。現在の校舎が建設されるまで、グラウンド整地作業は生徒の手で行われた。しかも体育の授業時間に行っていたというのだから驚きだ。この作業の中で、初代校長の田辺重一先生が「すれば何事も出来るんだ。出来ないのはしなからだ」という言葉を生徒にかけていた。このころは八幡工業高校を自

### 「やむを得ない」は迷惑だ

おり、様々な変遷を受けながら今日まで続いている。初期の頃には「八工走」という名称はなく、ただの「集団走」と呼ばれていた。放課後に行われており、週に二回実施されていたことが、当時の八工新聞からわかる。八工走否定派からするとトンデモナイといった感じだろう。まだまだ昭和の時代であり、体力をつけることが重要視されていたようだ。初期の「集団走」は、現状の「八工走」ともう一つ大きな違いがある。距離が三種類に分かれていた。7km・5km・3kmの三種類があり、運動部の人は問答無用で7kmを走っていた。これを週二回行っていたというのだから驚きだ。その後コースは大幅に短縮され、三種類あったコースは廃止3kmに統一された。放課後に週二回開催されることは変わっていない。開校当初からの集団走だが、中断されたことがある。当時の

分たちの手で創るのだと躍起になっていた時代だ。大変な作業の中には精神論も必要であった。しかし、時は流れた。「常識」や「当たり前」をはじめとする人々の意識は変化しない。精神論が通用する時代は過ぎた。上司がうかつに精神論をふりかざせば部下からパワハラだのモラハラだのと騒がれる令和だ。それにもかかわらず、本校の「スローガン」は「やればできる八工魂」で現在に至る。

### ホントにやったらできるのか。

一年越しに実現したオリンピック・パラリンピック。そこでは数多くのメダルが日本にもたらされた。しかしメダル獲得を目指した選手の大半は涙をのんだ。メダル獲得は超狭き門である。やったらと言っ



1 やったらと言っ て必ず獲得できるわけではない。

成果をとまなう目標を掲げた場合「やればできる」は真実ではない。押し付けられるのは迷惑だ。あくまで個人的な想いとして言いが、個人の中の限界は自分しか分からない。第三者からやればできると言われ続けるのは腹が立つ。心が弱っている時に頑張れと言われて凹むのと同じではないか。一方で、初代校長のこんな言葉もあったので紹介しておこう。

### 「出来ないのであれば」 「やればできる」に続く言葉として発せられた言葉だ。これは確実に真実だ。そうは思わないか。

八工魂はやればできると「信じる心」だ。他者に振り回されず、やればできると信じる強さを自分の芯に持たせたい。(川)

### 「やればできる」 「出来ないのであれば」

佐野先生によって描かれた。ところで、いつもはっちーの横にいるグレイのキャラクター。おまけが多いが、実は名前がない。構想段階では「工業がんばるくん」という名前があったが、その長さゆえに却下。現在まで名無しである。昨年には新聞部イラスト担当プリンにより、妹「はなちゃん」も誕生し、にぎやかになった。どこで生まれたのかと見当がつかぬわけでもない。灰色のキャラにも名前をあげたい。僕の提案は「GLAY(グレイ)」なのだ。新聞部内ですら全く賛同が得られず暗礁に乗り上げている。(川)



↑初めて掲載された四コマ漫画はっちーの原画→

「私がここに来てから3人が死んでいる」

1973年12月八工新聞に掲載された当時の校長先生の言葉だ。皆さんは「3+1無い運動」を知っているだろうか。バイクに憧れていても、この規制によって免許を取得しないのに取得することとがでず「こんな規制無ければいいのに」と歯がゆい思いをしている人もいるかもしれない。

### 3+1ない運動

### バイク規制の理由

八工が開校して6年後の1976年10月、八工新聞に記事が掲載された。当時2年6組の生徒の訃報だ。無免許で友人のバイクに乗り、事故を起こして死亡した。

その5年後の1971年12月にはまた訃報が掲載される。当時2年2組の生徒がバイク事故

で犠牲となったという。この1966年から1971年の6年の間に、先の2名を含む6名がバイク事故を起こして死亡している。更に1971年には他にも15名がバイク事故で重軽傷を負ったと掲載されていた。当時バイクに魅了されていた

第3回校内討論会の中でバイク通学の可否が問われることとなった。各クラス代表2名が集まり1年2組を会場として2時間に渡り行われた。この討論で「危険だし高校生としてのあり方からして不賛成だ」との意見が強く挙がった。

### ルールに込められた想い

八工でのバイクに対する規制はここから始まったと考えられる。保護者や先生方はもとより、私たち生徒自身が後悔し、悲しみに暮れることのないように、作られていたルールだった。

私はルールを守るのは、義務だと思ってきた。違う。責任だ。と思った。先人の想いを込めたメッセージ、それが私たちを守るためのルールとなっている。時に制約ばかり感じるが、そこに込められた想いを知ることが大切だと感じた。(竜)



(川)

(竜)